

【京丹後市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

Society 5.0 時代が到来するこれからの社会は、どのような職業や人生を選択するに関わらず、変化を前向きに受け止め、自分たちの社会や人生、生活を人間ならではの感性を働かせてより豊かなものにしたり、現在では思いもつかない新しい未来の姿を想像したり実現したりする力などが必要だと言える。

本市では、こうした力を「社会を生き抜く力」とし、「確かな学力」「豊かな人間性・社会性」「たくましく健やかな体」の3つの視点から育成を図っていききたい。児童生徒が、主体的に課題を発見し、多様な他者と協働しながら問題解決的な学習や教科横断的な学習、探究的な学びの充実を図り、ものごとに柔軟に対応する力や新しい価値を創造する力を育成し、探究的な学びの充実による「主体的・対話的で深い学び」の実現について重点化して取り組んでいく。

この目標の実現に向けて、1人1台端末や各種クラウドサービス等を活用して、互いの考えを視覚的に共有することにより、グループ内での議論を深め、学習課題に対する意見整理を円滑に進めるなど、児童生徒の資質・能力の育成を推進していく。

2. GIGA 第1期の総括

(1) 経緯と現状

GIGA 第1期において、ネットワーク環境を整備し、1人1台端末の活用を進めており、授業改善の成果が出つつあるが、指導や学習を単に効率化するための付加的な整備にとどまっている学校もあり、市内22校において学校間及び教員間での格差が課題となっている。

(2) ICT 施策の実施内容

- ・令和3年度より、全児童生徒に学習用端末を配備し、全小中学校に学習用端末を接続するための校内ネットワークと無線接続環境を整備した。また、普通教室には大型ディスプレイを配備するとともに、ICT 支援員を4名配置することで、教職員のサポート体制を整え、授業の質の向上に努めてきた。
- ・学習用端末と併せて、学習支援システムと授業支援システムを導入し、各校の使用率の状況を把握しながら、定期的な教職員 ICT 研修を行うなど、段階的な活用率の向上を図った。
- ・令和3年度、令和6年度にクラウドサービス用アカウントを導入し、それぞれのクラウドサービスを活用しながら、ファイル共有・共同編集により児童生徒の対話や協働を促した。

(3) 課題

- ・教職員間の ICT 活用のばらつき：授業や校務での ICT 活用頻度に教職員間で差があることが課題として挙げられる。
- ・学習用端末の見直し：様々なシステムやクラウドサービスを導入してきたが、特にクラウドツールにおいて、学習用端末との相性に問題があり、正常に機能しないことが多々見られたため、次期更新端末においては仕様の見直しが必要である。

3. 1人1台端末の利活用方策

京丹後市では、GIGA スクール構想第2期において、端末を更新し、児童生徒1人1台の端末環境を引き続き維持します。その効果的な利用促進に向けて、以下の取り組みを進めていきます。また、第1期で明らかになった課題を踏まえ、端末の利用や運用の質を向上させるための具体的な対策と改善策を検討する。

本市では、GIGA 第1期において、1人1台の学習用端末にタブレット端末を採用したが、本市の目指す学びの姿を実現するために、抜本的な改革が必要と考え、次期端末更新においては、クラウドサービスの活用により適している端末を採用する。端末 OS 開発元の提供する各種ツールを活用することで、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す。また、端末の稼働状況、学習用ツールやクラウドアカウントのログ等の学習データを可視化・分析する機能を整備することで、一人ひとりの児童生徒の特性や学習進度に応じた指導の個別化を進めるとともに、一人ひとりの興味・関心や意欲に応じた学習活動の機会を提供し、各学校での端末の稼働率や活用方法を分析し、学校間及び教員間での格差の解消を図り、PDCA を繰り返しながら授業改善につなげたい。

また、様々な困難を抱える児童生徒に対する支援として、多様な場面で ICT を活用し、1人1台端末を利用したリモート授業の実施等により、個々の家庭状況や学校教育になじめない児童生徒、日本語指導が必要な児童生徒及び障がいのある児童生徒等の学びの幅を広げ、学びの機会の保障や教育の機会均等を確保していく。